

【成長戦略研究】果樹や野菜におけるバイオ炭を用いた土壌炭素貯留効果の検証 (R5~7)

総合農業技術センター

背景・目的

バイオ炭の土壌施用について

- 「みどりの食料システム戦略」にも採用された炭素貯留方法
- 農地土壌が炭素貯留の場として重要な役割を担うことを期待

果樹王国である本県では、ブドウやモモの剪定枝由来のバイオ炭を活用し他の都道府県に先駆けて、土壌炭素貯留の取り組みを推進

↓

しかし**モモ・ブドウ以外の果樹や野菜**は、炭の特性や炭素貯留効果が不明

研究の目的

バイオ炭の材料を、**モモやブドウ以外の果樹や野菜**にも拡大
 それらのバイオマスから作成したバイオ炭の土壌施用による炭素貯留量を数値化するとともに、CO₂削減効果を明らかにする。

果樹や野菜からバイオ炭を作成

無煙炭化器による炭化

バイオ炭を土壌に施用

農業によるカーボンオフセットを実現

YAMANASHI 4 per 1000 INITIATIVE


土壌炭素貯留

研究内容


1年目	2年目	3年目
<p>【効率的な炭化方法の検討】</p> <p>○対象品目: ・果樹:スモモ、オウトウ、カキ、醸造用ブドウ ・野菜:ナス、スイートコーン</p> <p>○検討内容: ・炭の歩留まり ・炭の性状評価 ・成分分析、難分解性炭素率</p>	<p>【野菜生育への影響調査】</p> <p>○検討内容 ・生育への影響 ・養分吸収量 ・炭(籾殻くん炭の施用を含む)の施用限界量 ・土壌化学性(pH、CEC)</p>	<p>【CO₂削減効果の数値化】</p> <p>・CO₂削減量算出</p>

期待される効果

- モモやブドウ以外の果樹や野菜のバイオ炭についても、土壌施用によるCO₂削減効果が明らかになる
- 「やまなし4パーミル・イニシアチブ農産物等認証制度」の品目拡大に向けた基礎データとして活用可能
- 認証制度の活用で、環境に配慮した農産物として県産農産物のブランド化が期待



無煙炭化器



作成したバイオ炭